

『ドリーム・ファイター』

作…佐藤剛史

〈登場人物〉

柳 学祭実行委員長
丸山 学祭実行委員・広報班
太田 学祭実行委員・美術班
長谷 演劇部部长
宮崎 元演劇部員
大岩 バスケ部部长
安東 バスケ部員
馬場 山岳部部长
若松 陸上部部長

美術班の人たち

放課後。空き教室。

柳、丸山が机に向かってしている。

教室の隅には寝袋に入って寝ている馬場。

「夢に向かって翔べ！」と書かれた学祭のポスターを壁に貼っている太田。

太田 よし！

柳 貼れた？

太田 はい。今日から三週間、この空き教室は我々学祭実行委員会が占拠します！

柳 ちゃんと許可取ってるんだから、そんな物騒な言い方はやめて。

太田 「夢に向かって翔べ！」（羽はたいたりする）

丸山 うーん。太田じゃ、辿り着けそうにないな。

太田 えー。一生懸命飛んでるのに。

丸山 問題は、どこに向かって飛んでるのか？ だよ。

太田 夢だよ、夢！

丸山 太田の夢って？

太田 もちろん「学祭の成功」。

丸山 それ夢って言うかな。

太田 言うんじゃない？

柳 何かちよっと規模が小さい気はする。

太田 ちっちゃいんですか？ じゃあ、「学祭の大成功！」。

丸山 だからそういう意味じゃなく。

太田 どういう意味？

柳 太田の言ってるのは夢って言うより当面の目標なんだよね。

太田 じゃあもっと未来の事ですか？

柳 っていうか夢ってさ、もっと困難で大きな目標に対して使うじゃない。

太田 例えば？

柳 例えば「将来医者になる」とか。

太田 「俺は海賊王になる」。

柳 「部活で全国制覇」とか。

太田 「覚醒して世界征服」。

丸山 ファンタジーの世界に飛びすぎ。加減というものを知らんのか。

太田 え？ じゃあ、丸ちゃんの夢は？

丸山 私の夢？ ……こういう個人的な事はむやみに語るものじゃありませんね。

太田 そっちが先に聞いてきたのに。

丸山 そうだっけ？

太田 先輩は？

柳 私は…何だろう。

太田 ちょっと先輩、頼みますよ。

柳 具体的に今はちよつと思ひ浮かばないかな。

太田 じゃあ何でこのテーマにしたんですか？

柳 何事もポジティブに、前向きにっていう願いを込めてこれにした。って、みんなで決めてたでしょ。

太田 そりゃあ、ねえ。盛り上がる方がいいですから。年に一度の学祭なんですから。

丸山 先輩、当日パンフレットのあいさつ文なんですが。

柳 何？

丸山 「みんなさんの夢は何ですか」

太田 みんなさん？

丸山 これ「みんな」か「みなさん」か…

柳 ……「みなさん」で。

丸山 わかりました。

太田 「みんなさくくん」ってみんなに呼びかけてるみたいでいいじゃないですか。

柳 無理にフォローしなくていいから。

丸山 先輩。

柳 何？

丸山 「毎日学祭の季節になると」…

柳 ……「毎年」

丸山 わかりました。

太田 「毎日学祭の季節」って、毎日学祭のこと考えてそうで素敵だと思います。

柳 太田、美術班の見積もり出来てる？

太田 あとちょっとです。

柳 じゃあ、よろしく。

丸山 先輩。

柳 はい！

丸山 あとは大丈夫そうです。

柳 ……ありがとう。引き続きよろしく。

丸山 わかりました。

三人は机に向かう。

大岩が来る。

大岩 おつかれ。

柳 遅い。

大岩 今日中でしょ？

柳 ギリギリだよ。昨日、広報班が回収に廻った時にほとんどの部活は出してるんだから。

大岩 そんな厳しいこと言うなって。(近くに來ている丸山に気づく) すいません。

丸山 いただきます。(大岩から原稿を受け取る)

大岩 原稿はそれでいいんだよね。

丸山 はい。

柳 「フリースロー体験」だっけ？

大岩 そう。ウインターカップの予選もあるからさ、そんなに凝った事はできないよ。だから代わりに「みなさんにバスケットボールの楽しさを体験していただくよう」

柳 と、原稿には書いてあるのね？

丸山 はい。

太田 先輩の夢は全国制覇ですか？

大岩 なんだよ、いきなり。

太田 バスケット部、全国制覇！

大岩 まずは予選勝ち抜いて「全国大会出場」が、当面の目標かな。

柳 インターハイ予選は準優勝だったんだから、次は行けるんじゃない？

大岩 そうだといいいね。私たちには最後の大会だし。

太田 じゃあ、夢は大きく「全国制覇」と。

大岩 まあ、そうしておくか。

柳 私もやってみるかな、フリースロー。

大岩 柳のスローで入るかな。

柳 失礼な。こんな感じで。(フリースローのまね)

大岩 今のじゃ全然リングに届かない。

柳 うそお。もっと優しくバスケットボールの楽しさを体験させてくれよ。

大岩 なに甘えてるんだよ。……(馬場に気が付き) あれ、何?

柳 ああ、馬場。昨晚遅くまで原稿作ってたらしく、提出したら力尽きたみたい。三十分仮眠させてくれて。

大岩 さすが登山部はどこでも寝れるな。

太田 こんなところで寝たら凍え死ぬぞー。

大岩 いや、むしろここじゃ暑苦しいだろ。

太田 「寝るんじゃない。目を開けるんだ。バシッ、バシッ。一緒に山を下りるんじゃないか。ったのか。おうちに帰るまでが登山だぞー！」

間。

丸山 太田、ハウス。

太田 ワン! (席に戻る)

大岩 なに? この暑苦しいの。

柳 気にするな。原稿の方は、もし何かあったら聞きに行くから。

大岩 わかった。じゃあ、部活行ってくるよ。

柳 行ってらっしゃーい。

大岩が去る。

太田 私、暑苦しいですか?

柳 大岩はそういうコメントみたいなのわかんないから。

太田 馬場先輩はわかってくれると思うんだけどな。

柳 だからって起こすなよ。

太田 登山部は中庭でゆるキャンでしたっけ?

柳 ゆるキャンって言うより、ガチキャン。

太田 ガチ?

柳 火起こし、薪割り、テント張り。野外調理では、食べられる野草・昆虫食講座。

太田 サバイバルですな。

柳 当然、雨天決行。

太田 ひい。

柳 馬場は「盛り上がるから、むしろ雨降らないかな」って言ってる。

太田 マジすか? こっちはテルテル坊主作ろうと思ってるのに。

柳 作ればいいよ。

太田 わかりました。私のテルテル坊主と、馬場先輩の雨乞いとこの戦いという事ですね。先輩だからって容赦しませんよ。

柳 その戦いで「容赦する」ってどういう事になるの？

太田 それは……

丸山 あ！

柳 今度はなに？

丸山 バスケ部の体育館使用時間が陸上部とかぶってる。

柳 体育館なら共有できるでしょ？

丸山 陸上部の「体力測定」は屋外でも行う予定です。雨天時にはその一部が体育館に移動することもあります。

柳 まあ、来場者の数にもよるけど。

丸山 雨天時の確認を怠った。

柳 でも陸上部も「使えるスペースはこれだけです」って言えばうまく収めてくれるんじゃないかな？

丸山 だとしても、それはもっと早い段階で確認すべき事項なんです。バスケ部のゴールの使い方によって空きスペースは……陸上部に確認してきます。

柳 よろしく。

丸山が去る。

見送る二人。

太田 丸ちゃんにしては珍しいミスですね。

柳 丸山にしては、ね。(太田を見る)

太田 ……人は失敗を重ねて成長していくんです。

柳 成長しろよ。

太田 オッス！ 今日から毎日学祭の季節にします。

柳 ……それは素敵だな。私も成長するよ。

太田 お互い頑張りましょう。

柳 オッス。

二人は机に向かう。

宮崎が来て部屋を覗いている。

宮崎に気が付く柳。

柳 お、どうした？

宮崎 ああ、暇だったから。

柳 暇なら手伝え。

宮崎 うん。……何やれば？

柳 冗談だよ。

宮崎 なんだよ。

柳 手続きとかで忙しいんじゃないの？

宮崎 まあね。もう面倒くさくってさ。

柳 それで逃げて来たか。

宮崎 そんなところかな。(馬場に気付き) あれは？

柳 馬場。学祭のパンフ原稿持ってきたんだけど力尽きた。

宮崎 教室で遭難してるな。

太田 そうなんです。

宮崎 ……

太田 「こんなところで寝たら凍え死ぬぞー。寝るんじゃない。目を開けるんだ。バシッ、バシッ。」……

宮崎 「ダメだ。今までにない程上の瞼と下の瞼が仲良しになっていく。」

太田 「先輩、寝ちゃダメですよ。一緒に山を下りるんじゃないんですか。おうちに帰るまでが登山なんじゃないんですか。」

宮崎 「どうやらここまです。俺のことは気にせず、お前は先へ進め。」

太田 「弱気になっちゃダメです。下山したら一緒にチェリビのポテトを飽きるまで食べようって約束したじゃないですか。」

宮崎 「すまん、約束を果たせなくて。後の事は頼んだぞ。」

太田 「先輩。」

宮崎 「ガクッ。」

太田 「せんばーい！」

宮崎 「……」

柳 ……もう気が済んだ？

太田 はい。先輩、ありがとうございます。

宮崎 どういたしまして。

柳 宮崎も付き合わなくていいんだよ。

宮崎 演劇部の血が騒ぐっていうか。

柳 太田も演劇部に入れてもらったらいいんじゃない？

太田 そうしたら先輩とコンビ組めますかね？

宮崎 コンビって演劇部を何かと勘違いしてないか？

柳 コンビは無理だな。宮崎、転校するし。

太田 ええー、どこへ転校するんですか？

柳 アメリカ。

太田 すげえ、留学ですか。

宮崎 親の転勤で仕方なく。

太田 すげえ。親の会社がアメリカにあるんだ。

宮崎 まあ、そんなところかな。

太田 すげえ。

柳 太田、いちいちうるさい。仕事しろ。それができないと、先生のところに「全体見積もり」持っていけないんだから。

太田 美術班の見積もりなら出来てますよ。

柳 お、いつの間に。

太田 成長してるんで。

柳 だったら次は、美術班の様子見てきてくれない？ 今日中に「ドリーム・パネル」仕上げらって言うって言ってたけど、もし無理そうだったら明日に回してもいいからって。

太田 了解っす。

安東が来る。松葉杖をついている。

柳 安東。

安東 おお。

宮崎 まだ杖？

安東 念のためにね。

太田 そうですよ。骨って油断すると治り遅くなっちゃうんですよ。私も去年骨折した時に調子に乗っちゃって

柳 太田。

太田 ……では私、実家に帰らせていただきます。ドロン。

太田が去る。

宮崎 実家？

柳 太田、元々の所属は美術部だから。

宮崎 ああ。

安東 にしても、元気だな。

柳 一人くらい、ああいうのがいた方がいいんだよ。……バスケット部の原稿はさっき大岩が持ってきたけど。

安東 そう。

柳 ……何か用？

安東 忙しいんだったら、また。

柳 大丈夫だよ。こんなのもいるし。

宮崎 誰がこんなのだ。

柳 それとも、こんなのがない方がいい？

宮崎 何度も言うな。

安東 別にいてもいいよ、こんなの。

宮崎 おい！

柳 そう。でも、職員室に見積書持っていかなきゃだから、ちょっと待っててもらっていい？

安東 いいよ。

柳 じゃあ、留守番よろしく。

安東 了解。

宮崎 いってらっしゃい。

柳は職員室へ。

見送る安東と宮崎。

宮崎 何？ 話って。

安東 大したことじゃないよ。宮崎は？

宮崎 ああ……暇だったから。

安東 ……学祭の舞台には立たないんだっけ？

宮崎 うん。

安東 学祭終わったら、アメリカなんですよ。

宮崎 ……そうなるね。

安東 寂しくなるな。

宮崎 そう？

安東 あ、宮崎の方が寂しいか。

宮崎 え？

安東 向こうに友達いるわけじゃないから。

宮崎 そりゃあね。

安東 友達百人出来るかな。

宮崎 百人もいららないよ。

安東 いらないか。

宮崎 こっちでも百人いないし。

安東 そうだよね。……私は入ってる？

宮崎 どうかな。

安東 えー、ショック。

宮崎 入ってるって。

安東 やったー。数少ない宮崎の友達。

宮崎 数少ない、言うな。

二人は笑う。

安東はポスターを見る。宮崎もポスターを見る。

安東 「夢に向かって翔べ！」か。留学って夢、叶ったじゃん。

宮崎 他力本願だけどね。

安東 他力本願も実力のうち！

宮崎 何？ それ。聞いたことないよ。

安東 ……ねえ、夢が叶ったら、次はどうするのかなあ？

宮崎 次の夢を見つけるんじゃない？

安東 そう簡単に見つかる？

宮崎 方向が変わってなければその先に見つかるでしょ。

安東 そうかな。

宮崎 だと思っよ。

安東 ……じゃあ、もし夢が叶わなかったら？

宮崎 え？

安東 夢が叶わなかったら、どうする？

宮崎 ……叶うまで頑張るかな。

安東 じゃあ叶うまで頑張ろうと思っても、その夢にタイムリミットがあるとしたら？

宮崎 え？ ……足、治らないの？

安東 治るよ。治るけど…間に合わないんだ。

宮崎 ……

長谷が来る。

長谷 あれ？ 柳は？

安東 ちよっと出てる。すぐ戻るって。

長谷 そう。…何話してたの？

宮崎 いやあ…

安東 宮崎の夢が叶ったな、って話。

長谷 ああ、親の都合とはいえ叶うもんだな。

安東 他力本願も実力のうち！

長谷 何？ それ。

安東 まあ、そんな？ 格言みたいなの？

長谷 でも実はまだ夢は叶ってないんだよね。

安東 え？

長谷 留学するのは夢の手段でさ。夢は「世界平和」。

安東 そういえば言ってたね「世界平和」。

宮崎 恥ずかしいな。昔の話だよ。今はそんな夢物語じゃなくて、もっと現実的なことを考えるようにしてるよ。

長谷 いいんじゃない？ 夢なんだから、夢物語で。

丸山と若松が話をしながら戻ってくる。

その後から大岩も来る。

若松 「握力測定」「上体起こし」「長座体前屈」。あと、「反復横跳び」と「立ち幅跳び」。

丸山 結構ありますね。けど、一応収まると思うんですよ。

大岩 安東……

安東 おお。

丸山 ……大岩先輩？

大岩 ああ。

丸山と若松がいる机のところへ大岩も行き、書類を見ながら話を始める。

丸山 このスペースが陸上部で、バスケット部はこっちのゴール周辺で、と考えたんですが、どうでしょう？

大岩 うちはこちらまではいいけど、ゴールが無いと成立しないんで、こっからは譲れないな。

若松 確かに体育館半分ちょっともらえれば何とか収まると思うんだけど、問題は雨が降った時なんだよね。

大岩 雨？

若松 そう。校庭でやる50m走を持ってこなきゃいけないだろ。

丸山 え？ 50m走ってどこでやるつもりですか？

若松 だから、体育館のここの幅を……どのくらいある？

大岩 コート2つ分とちょっとだから、50mくらい。

若松 ギリか。

丸山 走り終わったら、いきなり壁ドンですね。

若松 ……いきなり壁ドン……。ドキドキするね。

大岩 考えてなかったのかよ。

丸山 どうします？

若松 ……雨天の場合、50m走は中止で。

丸山 じゃあ、この案でよろしいでしょうか。

若松 OKです。

丸山 ありがとうございます。

若松 じゃあ、この図面もらっていい？ みんなにも説明しておきたいから。

丸山 いいですよ。

若松が図面を受け取り去る。

長谷 何があったの？

丸山 陸上部とバスケットで体育館のシェアを、あ！ 演劇部さん。

長谷 はい。演劇部です。

丸山 当日パンフレットの原稿を。

長谷 ああ、原稿ね。どうぞ。

丸山 ありがとうございます。

長谷は丸山に原稿を渡す。

この間に、大岩は安東のところへ行く。

大岩 安東さ、ちょっと話があるんだけど。

安東 退部届は、さっき出してきたから。

宮崎 え？

大岩 知ってる。ケガで出遅れたのを気にしてるのかもしれないけど、短い時間でも安東が出てくれるだけで流れ変えられるんだから、辞められたら困るよ。

安東 昨日、病院行ってきた。治っては来てるけど、最後の大会には間に合わないんだって。

大岩 え？

安東 短い時間でも難しいって。

大岩 ……でも、だからって、辞める事ないでしょ。

長谷 バスケット部、辞めたの？

安東 ……うん。

宮崎 なんで？

安東 「夢は県大会優勝。そして全国制覇」。・せつかく夏のインターハイ予選で準優勝までできて、最後の大会で本当に夢を叶えられるとこまで来てたのに、レギュラーの私
がこれだもん。

大岩 だけど、それでも残ったメンバーで優勝目指して頑張るつもりでいる。だから安東も

さ

安東 大岩はいいよ。試合に出て頑張れるんだから。でも私は、そのコートに立てないんだよ。

大岩 どんな形でもいいから、チームの一員として参加すればいいじゃない。

安東 今は考えられないの。

大岩 だったら余計急ぐ必要ないでしょ。

安東 あんたにはわかんないよ！

大岩 ……

安東 ごめん。わかってもらおうと思ってるわけじゃないんだ。私も、こんな気持ちになるとは思わなかったから。

間。

宮崎 あの、さ。

アラームが鳴る。

馬場が目を覚まし、アラームを止める。

みんなは馬場を見る。

馬場 おはよう。

丸山 もう夕方ですよ。

馬場 ああ、よく寝た。

大岩 馬場、今ちよつと込み入った話してるんだ。だから

馬場 (ポスターを見て)「夢に向かって翔べ！」か。

長谷 相変わらずマイペースだな。

馬場 私も今、夢を見た。

宮崎 その夢の話じゃないって。

馬場 一年の時の宿泊研修で浜名湖行ってさ、夜中遅くまで食堂で話してたじゃん。あの時の夢を見た。

長谷 こっぴどく怒られたやつね。

馬場 でも今のは夢だからね。怒られずにずっと話してた。これから始まる高校生活の話、

当時の推しの話、どうでもいいくらいだらない話。そのまま朝までずーっと話してるんだ。で、朝日が昇ってきたんでカーテンを開けたら、そこは浜名湖じゃなくて雪山だった。

長谷 夢だからね。

馬場 何で今頃そんな夢見るんだろうって思ったけど、そういうことだったんだね。

丸山 そういうことって？

馬場 その宿泊研修の時のメンバーが揃ってる。

丸山 え？

馬場 いや、一人足りないか。

柳が戻ってくる。

柳 いやあ、草薙先生に捕まっちゃって。なかなか解放してもらえな……何？

馬場 揃った。

柳 え？

馬場 高一の宿泊研修でペナルティーくらったメンバーが揃ったなって。

柳 ペナルティーって、あれは馬場が食堂にコンロ持ち込んだからだろ。

丸山 そんなことしたんですか？

馬場 簡易コンロね。今も持ってるよ。

柳 こっちは巻き込まれて怒られるし。

長谷 あれは災難だった。

馬場 巻き込まれてって、あの時焼マシマロ食べた奴はみんな共犯者だ。

丸山 コンロで焼マシマロですか。

長谷 確かにうまかったけど。

馬場 その時に、将来の夢も語り合ったよね。例えば「全国制覇」とか。

柳以外のみんなの視線が安東へ。

柳 何かあったの？

長谷 安東、バスケ部やめたって。

柳 え？ ……話って、その事？

安東 ……

丸山 あの……

柳 ああ。……すまないんだけど、ちょっと席外してくれるかな。

丸山 はい。

丸山が去る。

大岩 ……確かに私にはわかんないかもしれない。だけど説明はしてほしい。

安東 ……インスターハイ予選、バスケ部が初めて県の決勝まで行けて、すごく盛り上がったでしょ。バスケ部だけじゃなくて、みんなも。

柳 そりゃあ一年の時に「県大会優勝」って言ったのが、本当に目の前まで行けたんだも

ん。

安東 それから、県大会で優勝するのを何度も何度も思い浮かべてさ。イメージトレーニング。もう気が早いけど全国大会のことまで考えちゃってさ。バカみたい。

大岩 私だって思い浮かべたよ、何度も何度も。

安東 それが、ここへ来て自分がコートに立てないって、どういうこと？ ショックで、悔しくて、仕方なかった。みんなの練習見学するのも辛くて。夢を無くした自分の居場所、もうコートにもベンチにもないんだって。

大岩 ベンチに入れなくても、部員として応援だけでもしてほしいよ。一緒に最後の大会迎えたいよ。

安東 私も初めは、もし出られなくても応援しようって思ってた。

大岩 じゃあ

安東 「もし夢が叶って優勝しても、そのコートに自分がいないんだったら優勝なんかしなくらい」。

柳 え？

安東 そんな考えが頭をよぎるんだ。そうだったら、もうみんなのことを素直に応援なんかできないよ。

大岩 ……

柳 今は試合に出られないってわかった直後だから、そんな自暴自棄になってるだけで、時間置けば素直に応援できるようになるんじゃないかな。

長谷 そうだよ。宮崎だって初めは「自分の出ない学祭公演なんか見たくない」ってわがまま言ってたけど、今は客席で私たちの公演を応援してくれるって。だいたい自分の出てる公演を観る事なんてできないんだから、最後に自分の部活の公演を客席で観られるなんてラッキーなんだよ。

宮崎 その話なんだけど。

長谷 なに？

宮崎 私、学祭まで学校にいられなくなった。

長谷 え？ じゃあ公演観られないってこと？

宮崎 ごめん。来週頭には向こうに行くことになったんだ。

長谷 来週って、え？ 何で言ってくれなかったの？

宮崎 急に決まっちゃって。

長谷 三週間くらい延ばせないの？

宮崎 いろいろと予定があるんだ。

長谷 こっちだって予定あるよ。ほら、柳だって学祭の打ち上げと一緒に宮崎の送別会やらうって企画してくれてたんだよ。

宮崎 え？ そうなの？

馬場 それ、サプライズだったからね。今言っちゃったけど。

長谷 もうサプライズ関係ないよ。っていうか、今私たちがサプライズ受けてるの？

柳 私の事はいいよ。送別会はやめればいいだけだから。

長谷 え？

柳 宮崎がいない送別会じゃあ意味ないし。

宮崎 ごめん。そんなこと企画してくれてたなんて知らなくて。

柳 だってサプライズだもん。ここまでバレなかっただけでも大成功。

宮崎 ほんと、ごめん。

柳 いいよ。大きな夢に向かっての一步なんですよ。

宮崎 ……うん。

柳 だったら仕方ないよ。もっと胸張って行けよ。

宮崎 ありがとう。

長谷 大きな夢だったらいいの？

柳 え？

長谷 「世界平和」に比べたら、「公演やりたい」なんて小さな夢かもしれないけど。公演一つ作り上げるまでにどれだけエネルギー使うか知ってるでしょ。そんなに簡単にさ、

宮崎 私の為だけの公演じゃないでしょ。

長谷 そうだけど…宮崎に見てほしかったよ。

宮崎 ごめん。

馬場 途中だけど、長谷の夢を見届けてほしかった、って？

長谷 ……この間の進路相談の時に、「将来はどうするんだ？」って聞かれたから「役者になりたい」って答えた。そうしたら「夢みたいなこと言ってるんじゃない」って言われた。そうだよ。夢だよ。夢語って言われたから夢語ったよ。それが世の中のためになるのか？ 誰かの役に立つのか？ って言われたら、わかんない。だけど夢なんだからさ、夢物語でいいでしょ。

大岩 「夢物語」か。懐かしいな。

柳 あの頃って夢ばかり語ってたよね。

宮崎 あの頃？

柳 一年の頃。

馬場 宿泊研修で語ったね、お互いの夢物語を。焼マッシュマロつまみながら。

柳 大岩と安東は「高校バスケットで全国制覇」って恥ずかしげもなく言ってた。でも二人が中心になってがんばって、弱小バスケット部を決勝まで連れて行っちゃうんだもん。すごいよ。長谷はあの頃から「役者になる」って言ってる、今でも進路相談でそう言ってる。馬場は「世界一周一人旅」。すぐにでも出発しそうだった。今も。宮崎は「世界平和」って、それこそ夢物語みたいなこと言い出して、驚いてる私たちに語り始めちゃって。みんなすごいなって思った。何も考えてなかった私は、「この高校生活の間に夢を見つめるのが夢」って、一人だけぼんやりとスタートラインに立ったようなこと言ってた。

あれから二年。いまだに私は「夢」って呼べるものが見つかって無い。あれからずっとスタートラインに立ったまま。スタートさえ切れてない。

馬場 でもあれは？ 夢に向かってる人を応援するんじゃないの？

馬場はポスターを指さす。

柳はポスターを見る。やがて近づいてポスターを剥がし、筒状に丸める。机の上に乗って丸めたポスターをメガホン代わりにする。

柳 わー！

馬場 どうした？

柳 ひよっとしたら、夢に憧れてただけなのかもしれない。いや、みんなのこと羨ましいと思ってたんだな。夢に向かって頑張ってるキラキラしてる姿を見てさ。

宮崎 キラキラなんかしてないよ。……「世界平和」なんて一年の時は言ってたけど、だんだん国際問題とか勉強していくと、とてつもなく大きな壁があって、夢が大きすぎて絶望した。それで考え直した。具体的に出来ることを考えて、留学って言い出した。そういえば少しは許されるって思って……

柳 ……それでもやっぱりすごいよ。

宮崎 今でも、世界中の人を笑顔にしたいって思ってる。けど今、目の前の人さえ笑顔に出来ないんじゃない私……

大岩 「全国制覇」って言うてみたかったんだ。

柳 え？

大岩 そんなもの遠すぎる夢でしかないってことくらい冷静に考えたらわかるよ。でも「県大会二回戦突破」よりスッキリしててカッコいいから言ってみただけ。「全国制覇」って。

柳 でも、全国って遠すぎる夢があったからここまで来れたんですよ。

安東 ここまで来て、もっと行けるって夢見ちゃったから、今私はこんなに辛い。それに、大岩の夢までダメにしちゃうのかもって思うと申し訳なくて……

大岩 安東一人の力で準優勝できたとも思ってるの？

安東 そうは思っていないけど。

大岩 安東が欠けた分を何とかしなきゃって、残ったみんなで頑張ってる。このまま本当に安東が出られないってなっても、今でも夢は県大会優勝だよ。何を一人で背負い込もうとしているの。責任感じちゃってるの。辞めるつもりならもう私の夢なんて関係ないでしょ。

長谷 そんな言い方するなよ。

大岩 勝手にすればいいんだよ。

間。
馬場も机の上に乗る。

大岩 馬場まで何やってんの。

馬場 そこに机があったから。

大岩 意味わかんないよ。

馬場 「夢は叶う」って言うけどさ、あれ嘘だよ。 「全国大会優勝」って夢を掲げて毎年何千という部活が頂点を目指してる。でも、夢が叶うのはその中のたった一校だけ。

「夢は叶わない」って言う方が断然確率高い。

柳 そんな夢の無いこと言うなよ。

馬場 何言ってるんの、夢は無いんじゃない。ちゃんとある。……ただ、無茶苦茶叶いにくいってだけだよ。

間。

いきなり馬場は歌を歌いだす。その歌は校歌かもしれないし、かつて六人が一緒に歌ったことのある歌かもしれない。

他のみんなも段々と歌に加わり、最後は六人で歌って（口ずさんで）いる。

歌い終わる。六人はそれぞれ少し笑顔になっている。

丸山が戻って来る。

丸山 先輩。何やってるんですか。

柳 すいません。（机から降りる）

丸山 馬場先輩も、何で机の上に乗ってるんですか。

馬場 そこに机があったから。

丸山 マロリーですか。

馬場 良く知ってるね。（机から降りる）

大岩 何？

丸山 イギリスの登山家です。「なぜ山に登るんですか？」って聞かれて「そこに山があるから」って答えた人です。

柳 禅問答みたいだね。

長谷 「バカと煙は高い所が好き」ってのと似たような話かな？

馬場 今私の事を煙だと思った？ でも禅問答でもないんだ。マロリーの言う「山」っていうのは具体的に「エベレスト」のことを指してたんだ。当時まだ誰もその頂上に登ったことがない世界最高峰の山。だから登りたいって思った。結局彼は登れなかったけど、夢だけは持っていた。「いつかあの山に登るんだ」って……

丸山 だったら山に登ってください。

馬場 はい。

丸山 それから、なんでポスター剥がしてるんですか？

柳 うん。……私は夢を語る資格がないんじゃないかって。

丸山 え？

太田が美術班と一緒にパネルを運び込んでくる。

パネルには「夢に向かって翔べ！」の文字とたくさんの寄せ書き風のメッセージ。

太田 先輩、出来ました。タイトルの周りにみんなの夢をちりばめた「ドリーム・パネル」。

太田と美術班はみんなにパネルをアピールする。

馬場 タイミング悪すぎるね。

太田 え？

柳 ありがとう。その辺りに置いていて。

太田 はい。

美術班は教室の中にパネルを立てかけて去る。

長谷 これって七夕みたいだね。

太田 これ作りながら考えてたんです。みんなの書いている夢は先輩が言う困難で大きな夢というより「目標」なんです。でも、夢に向かって翔ぶためには目標は必要なんだな
って。

柳 「目標」か。

太田 それで、目標が言うんです。「俺のことは気にせず、お前は先へ進め。さあ、俺を踏み台にして大きな夢へ向かって翔んでくれ！」って。

長谷 ……留学を踏み台に、世界平和へ翔んでくれ、って。

太田 そうです。

柳 ……県大会優勝を踏み台に、全国制覇へ翔んでくれ、って。

太田 そうです。

馬場 ……みんなの夢を応援することを踏み台に、夢を見つけてくれ、って。

太田 えーっと、それはナゾナゾですか？

馬場 かもね。

柳 丸山。

丸山 はい。

柳 あいさつ文、差し替えてもいい？

丸山 え？ 今からですか？

柳 うん。今なら自分の正直な気持ちを書けそうな気がする。

丸山 どんな内容にするんですか？

柳 えっと……今から整理する。

丸山 今からしても原稿最終締め切りの時間ですよ。せっかく皆さんそれに間に合わせるためにこうやって……みなさん、今の話は内密に。

馬場 いいよ。実行委員長の特権って事で。さて、もうこんな時間か。部活行かなきゃ。

……柳。

柳 なに？

馬場 別に夢なんて持ってなくても生きていけるし、一度持った夢に縛られることもないって思うよ。

柳 でも……

馬場 実は私の夢も、もう変わってるし。

柳 え？ そうなの？

馬場 うん。じゃあね。

馬場は去る。

大岩 なんか仕事の邪魔しちゃって、申し訳なかったね。

柳 いや、大丈夫。

大岩 私も部活戻るわ。とりあえず目の前の目標を一つ一つクリアしていくしかないからさ。

安東 大岩……今からでも撤回できるかな。

大岩 え？

安東 ベンチに入れなくても、サポート役をさせてもらえないかな。

大岩 ……勝手にすれば。

大岩はポケットから退部届を出して安東に渡す。

大岩は去る。

安東は退部届を破る。

破った退部届をどうしようかと考えていると丸山が受け取りにくる。

安東 ありがとう。(退部届を丸山に渡す。みんなに向き直って)お騒がせしました！

安東は去る。

長谷 私も部活戻んなきゃ。

宮崎 ごめん。

長谷 本番観られないんなら、リハーサル観に来てよ。

宮崎 だから来週には日本にいないんだって。

長谷 今週中にリハーサルやるから。

宮崎 え？

長谷 リハーサルできるようにするから。

宮崎 だって、そんな急に……

丸山 学祭演目のリハーサルということであれば、今週金曜なら講堂の使用許可取れますけど。

長谷 本当？ どうかな？ 金曜。

宮崎 ……わかった。

長谷 じゃあ、お願いできる。

丸山 了解しました。

長谷 ちゃんと金曜空けとけよ。

宮崎 ありがとう。

長谷 じゃあ急ピッチで仕上げなくっちゃ。

長谷は去る。

宮崎 ごめん。私もいろいろとお騒がせしちゃって。

柳 あのさ、金曜のリハーサル後、三十分でいいから簡単な送別会を企画してもいい？

宮崎 え？

柳 実は送別会の準備何もしてなくて。今からだと簡単なのしかできないけどさ。

宮崎 ありがとう。ちゃんと空けとくよ。

宮崎は去る。

柳、丸山、太田が残る。

丸山 先輩。

柳 何？

丸山 送別会の企画もいいんですが、その前にあいさつ文の差し替えをお願いします。

柳 ……わかりました。

丸山は退部届をごみ箱に捨てる。

丸山 ……私の夢は、医療現場に関わることです。

太田 いきなり、何？

丸山 母が看護師やってて、あんまり家にいなかったからいい印象なかったんですけど、中学の時に病院で働いてる母を見かけて。初めは母だって気が付かなかったんです。そのくらいなんかカッコ良かったっていうか。……それから少し意識が変わって。それで、この歳になったら母の仕事の価値もよくわかってきたっていうか、憧れるようになったんです。

柳 「この歳」っていくつだよ。

丸山 十六です。

柳 若い。

太田 先輩は？

柳 十八……

太田 充分若いですよ。まだまだ我々、先は長いですから。焦らずゆっくり夢を探していきましよう。ちなみに私もまだ十六歳です。

柳 おおた……

丸山 先輩、原稿。

柳 はい。

太田 あれ？ ポスター剥がれてる。

柳 は机に向かう。

丸山 も机に向かう。

太田 はポスターを壁に貼っている。

— 幕 —